

チクマ

チクマが創立120周年 堀松社長が語る感謝と決意

繊維専門商社のチクマは今年2月、創立120周年を迎えた。1903年(明治36年)に初代社長の竹馬隼三郎氏が神戸・元町に舶来毛織物の輸入販売を専業とする「竹馬隼三郎商店」を創業。激動の時代を越え、日本有数のユニフォームサプライヤーとして事業を展開している。5代目社長の竹馬隼一郎氏が1995年、環境対応事業開発班(現・環境推進室)を発足、ユニフォーム業界における環境保全活動の先がけとなった。自然環境も経済環境も激変する今、同社が目指す方向とは。堀松渉社長に聞いた。



120周年の感謝

おかげさまで本年2月に創業120周年を迎えました。その間、経営環境は大きく変動しましたが、幾多の困難を乗り越えて歩みを進めることができました。ひとえに、お取引様の長年にわたるご愛顧、ご指導、ご支援の賜物であり、改めて心より感謝申し上げます。ウクライナ紛争、グローバルでの物価高騰とその影響による景気後退、Covid19に端を発した労働需給の問題など厳しい状況が続いている

ことはご認識の通りですが、制服業界では、それらに加えて少子化や価値観の多様化といった本質的な環境変化が起きています。変化に対応するためには、新事業領域へのチャレンジが求められています。

また、SDGs(持続可能な開発目標)がこの数年で浸透し、カーボンニュートラルをはじめとするサステナブルな社会実現に貢献する取り組みも強く求められており、経営のかじ取りはより高度化していると認識しております。

社是不変の活動指針

そんな中、私たちは初代社長の竹馬隼三郎が掲げた社は「1・新しい視点に立ち新領域にチャレンジしよう」「1・共存共栄の精神に徹し行動しよう」「1・自己実現と社会の発展、福祉、

文化に奉仕しよう」を肝に銘じ、日々活動してまいりました。社是を基盤としたことで、先述の環境変化、SDGsの浸透などに、ごく自然に事業に取り組んでこられたと思っております。

象徴的な事例として、当社では1995年に「環境対応事業開発班」を開設し、以来、四半世紀にわたりユニフォーム分野でのリサイクル事業を推進してきました。環境省の広域認定を受けた第1号企業でもあります。

その後も数多くの方々とお会い、様々な取り組みを行ってまいりました。昨今では、ポリエステルのケミカルリサイクル技術のライセンスを目的とした合弁事業会社 R E P E A T の取り組み、東京大学との共同研究などのオープンイノベーションにより、自社のサプライチェーンにおけるCO2の排出量の算定などもスタートし、常に

最先端を取り入れるべく進化を重ねてきました。

チクマは、引き続き社会的な課題解決と企業の競争力向上を同時に実現させるCSV経営を推進してまいります。創業120周年を機に、ステークホルダー各位には「120年の伝統から120年の未来へ継承と革新」「次の120年に向かって今、行動を起こすとき」ACTION FOR THE FUTURE」というスローガンをご提示し、自ら付加価値を創造し、新たなマーケットを開拓していく企業であり続けることを誓いました。

「守りの経営」から「攻めの経営」へ

市況が低迷する中、「守りの経営」を重視する一方で、大幅な事業の構造改革にも着手しました。具体的には、ユニフォーム事業部では「ユニフォーム管理システム」のブラッシュアップ、海外販売部では輸出事業強化による収益増、アルファピア事業部ではカタログの合本に加え、在庫回転率を向上させることに成功しました。

また、「守りの経営」から、創立130年に向けた「攻めの経営」に転じる際に重要となるブランディングの強化を図っています。

2018年から帝人・マキタとの協

業により展開している電動ファン（EF）ウエア領域では「チクマノスマファ®」を立ち上げ、ECサイトでは一般向けの販売もスタートしています。

環境部門では、古着回収のプラットフォームとして「チクマノループ®」を立ち上げ、各イベントなどでの実装、訴求が始まっています。

当社は昨年11月に新中期経営計画を終え、次の130周年に向けた新中期経営計画に入りました。繰り返しとなりますが、「守りの経営」から「攻めの経営」に転じる時期にきています。前中計期間の事業構造改革により、より筋肉質な体制としたことも、そのための準備だったわけですが、サーキュラー・エコノミーの時代に当社の強みを最大限に生かした「新規事業」を創出することが大変重要になると認識しています。

業界内でもいち早く取り組んだ「環境対応」事業では、古着回収を代表とするリサイクル事業で多くの大手企業から評価をいただき、今後ますます重要性を増すと確信しております。また「ユニフォーム管理システム」やスクールの「服育」活動なども私たちの強みであることは間違いありません。

特に、服育については全国の服育研究会やアパレル様との協業も含め、これまで以上に多くの皆様に衣服の大



チクマノスマファ®は、ユーザーの要望に応え、バリエーションがさらに豊富に

切さとともに、制服を着用する喜びを伝えていきたいと考えております。

EFウエアといった新事業領域における成功事例も私たちの自信となっており、原材料、モノづくりを担ってくださるパートナーの方々、深くお取り組みをいただいているお客様とともに第二弾、第三弾と新たな事業創出に向けた協業を深めてまいります。

社内においては「人的資本投資」についても積極的に行っていく予定です。厳しい時代だからこそ「個」の強さなくして自ら付加価値を創造し、「新たなマーケットを開拓していく企業」であり続けることはできません。

チクマのこれまでの企業活動の集大成であり、今後の成長に繋がる取り組みとして、カーボンニュートラルがあります。真にサステナブルな社会の実現に向け、2050年までにカーボンニュートラル（温室効果ガスの排出を全体としてゼロ）を目指します。そのために、現状の当社のサプライチェーン排出量（GHGプロトコルによるスコップ1、2、3）の算定を行いました。具体的な削減目標は2021年度6万7344トに対して、2030年までに現在の30%減となる約4万7千トを目指し、2050年には100%削減をめざします。大きな目標ではありますが、仕入れ先様と密な連携を図りながら実現に向け活動してまいります。